

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570600201
法人名	特定非営利活動法人 ホームママ
事業所名	グループホーム 介の羽
所在地	滋賀県草津市南笠東3丁目21番71号 (電話) 077-564-1177

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年12月19日
評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 26 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	6 人
利用定員数計	5 人
常勤	2人
非常勤	4人
常勤換算	3.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~40,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,600 円	

(4) 利用者の概要(11月 26日現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大道クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、国道沿いから少し入った住宅街に立地し、民家改造型で定員が5名ということもあり、とても家庭的な雰囲気があります。管理者や職員は、利用者の人生歴や生活歴を深く理解し、その人らしく生活ができるように常に前向きに取り組まれています。地域とは良好な関係が築かれ、行事に参加したり、利用者が外に出られた時は近隣の住民が協力してくれたり、災害時での協力体制も得られています。また、草津市とは密接な関係を持っており、キャラバンメイトに参加したり、市からの提案で来年度には、地域の方に気軽に立ち寄ってもらえるような草津市では初めての小規模多機能ホームを開設する予定で、地域の介護相談の窓口としての役割を担うことを考えられています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価は職員で話し合い、できることから改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、評価の意義を理解できるように職員には項目を読んでもらって、管理者がまとめて記入しました。今後は、項目を再認識し勉強会を開く予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、連合会長、狼川町町会長、民生委員、草津市福祉課職員、地域包括支援職員、ホーム職員、管理者などが参加する運営推進会議を不定期に開催されています。ホームから、運営方針や報告をして、参加者からの情報や提案を頂いています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム玄関に意見箱を置いています。来訪時や運営推進会議に家族の参加があり話しやすい関係作りに努めています。家族からの相談があったときには、口頭で申し送りし、すぐに対応して改善できるように取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していませんが、連合会長や民生委員とつながりがあり地域の情報を頂いて敬老会や運動会、地蔵盆、清掃活動などに参加しています。散歩時には挨拶をし、利用者が徘徊したときには、近隣の方の協力があつたり、火災があつたときには、職員が消火活動を手伝うなど地域とは良好な協力関係を構築しています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を開設時に、職員で考え玄関に掲げていますが地域密着としての理念は作られていません。	○	利用者が地域の中で暮らしていくことの意義を職員で話し合い、法人の理念を基に考え作られることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスなどで、利用者一人ひとりの人生歴や生活歴を再確認して、理念にそったケアができていないか話し合っている。日々のケアの中で、思いやりの心が加味されているかななどを常に意識し、理念の実践に向けて取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していませんが、連合会長や民生委員と付き合いがあり、地域の行事を知らせていただき、清掃活動や行事に参加しています。利用者が外に出られた時は、近隣の方の協力があつたり、近隣で火災があつたときには、ホームからも応援に行つたこともあり協力体制を持っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、評価の意義を理解できるように職員には項目を読んでもらって、管理者がまとめて記入しました。項目を再認識勉強会を開く予定です。	○	自己評価票の項目の意味を理解しながら、全職員の考えや意見を取り入れ話し合いながら取組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、連合会長、狼川町町会長、民生委員、草津市福祉課職員、地域包括職員、ホーム職員、管理者などが参加する運営推進会議を不定期に開催しています。ホームから運営方針や報告をし、参加者からは情報や提案をいただいています。	○	運営推進会議は、定期的で開催されることが期待されます。また議事録には参加者からの質疑応答なども記録に残されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	草津市の職員とは密な連携があり、福祉課の職員の来訪やキャラバンメイトに参加しています。小規模多機能ホームの開設を持ちかけられ話し合いをしながら、準備をしている最中です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、直接コミュニケーションを取りホームでの様子を知らせています。毎月の請求書と立て替え金の領収書と一緒に利用者の写真やコメントを添えて報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を置いています。家族の来訪時や運営推進会議に参加いただいた際には、話しやすい雰囲気作りに努めています。家族から得られた意見は、職員に口頭で申し送りをして、すぐに対応し改善に取り組んでいます。	○	職員の申し送りは、口頭でしていますが、後でも内容把握ができるように記録に残し再確認できるように検討されてはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は、少なく馴染みの関係ができています。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に話を聞く体制を持っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症基礎課程研修や実践者研修に参加しています。管理者は、リスクマネジメント協会に加入しており、講師となって内部研修を行っています。日々、認知症について考え、よりよいホームにしたいとの思いや考えを内部研修の場で話し合っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	草津市の地域連絡会に参加しています。キャラバンメイトや研修で知り合った他のグループホームの職員との交流や情報交換をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、家族に見学に来てもらっています。家族から情報を得て、人生歴、生活歴を記入してもらい、職員は十分に理解した上でサービスの開始をしています。入居後は、利用者の人生歴を理解し環境に少しずつ馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に生活する中で、利用者の人生経験や、悩み事を聞き、疎外感をもたれないように対応し、淋しい思いも理解し、共感しながら何でも話し合える関係作りに努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者とのかかわりの中で状況に応じての行動を把握できるように努めています。利用者の訴えには耳を傾け、思いを見逃す事がないよう心がけています。人生歴を大切にカンファレンスを行い、意向や希望を聞きながら把握できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行い、課題を引き出し、人生歴や生活歴、理念に基いての介護計画を作成できるようにしていますが、充分ではありません。	○	計画作成日の記入漏れやホームが大切にしている人生歴や生活歴を取り入れた介護計画ができるように利用者や家族、職員の意見を取り入れ話し合い検討されることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のカンファレンスを開催し、職員間で話し合い、意見を計画に反映できるようにしています。モニタリングと評価をして3か月に1回、見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じた通院や買い物への付き添い、訪問理美容など利用者の希望や要望に応じた支援を行っています。また、家族の自由な来訪や利用者の部屋に泊まれることもあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医がかかりつけ医になっています。月に2回往診があり、24時間相談や受診ができるようになっています。また、計画作成担当者が看護師で安心して生活が送れるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、家族とホームでの出来ることについての話し合いを持っています。実際にターミナルケアを経験したことがあり、その時の状況に応じて家族の希望、病院との話し合いを持ちながら支援できるようにしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を持つての対応や介護される側の立場になり、黒子に徹するよう心がけています。個人情報や記録物の書類は、法人の事務所やリビングのテレビの横に置いています。	○	個人情報の記録物は、書庫に入れる、目隠しをする等の、他から分からないように徹底管理されることが求められます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとり一人のペースやリズムを大切にしています。居室やリビングで一日を過ごすなどその人らしく自由に希望に応じた支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで一緒にしています。利用者ができることに携わってもらい楽しみながらしています。また、職員も同じものを食べ、自然な流れで食事介助や声掛けをしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	10時前後から昼ごろまでが入浴の時間帯となっています。どの利用者も週に2～3回は、必ず入浴ができるようにしています。また、体調に合わせて、清拭などの対応をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備で利用者ができることを役割とし、ホームでは習字や塗り絵、折り紙などの個人ごとの趣味を楽しんだり、外食へ出かけたときに得意な詩吟を披露されるなど、気晴らしや楽しみの場を提供しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日に一回、天気の良い日は、散歩に出かけるのが日課になっています。毎月の外食や地域の行事に参加できるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入ってすぐが、お風呂場のため入浴中は鍵をかけることもありますが、日中はセンサーを利用し、鍵はかけていません。利用者が出かけた様子を感じたら、職員のその時の状況に応じて一緒に出かけたりしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署立会いの下、避難訓練を実施しています。運営推進会議で、地域の方の協力を呼びかけています。また、近隣で火災があり、ホームから職員が消火協力に行ったこともあり協力体制を持っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量は記録しています。食材業者の栄養バランスやカロリーが管理された献立を使っています。軟菜や刻み食、ミキサー食、とろみ食など利用者に合わせた食事が取れるように支援しています。また、利用者が食べたいメニューがあれば、外食で食べれるように支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、一人でも利用者同士でもゆっくりと出来るようにソファが置いてあり、料理の匂いや生活感がわかり、自分の家にいるような感覚で居心地よく過ごせるように工夫しています。また、利用者の身体状況が変わっても2階に上がるよう、階段にリフトをつけています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には、利用者ひとり一人手作りの名前が貼っており、今まで使っていたタンスやイス、布団、オルガンなどを持ち込んでもらい、家族と相談しながら居心地よく過ごせるように工夫しています。		